

言

義

土木學會誌 第十卷第一號 大正十三年二月

地表よりの蒸發に就て (第九卷第四號所載)

會員 工學士 中 村 猪 市

阿部工學士著の「地表よりの蒸發に就て」に關し討議の申込があつた本著は蒸發に關する新しき試みとして誠に結構なものと拜讀した之に對し別段討議を致す材料も智識も持たない實驗せられた裝置の充分でないこと等は御斷りがあつた夫に對し彼此御聞きするのも甚だ不穩當であるかも知れぬが後日の此種の實驗の參考の爲に第一第二地表蒸發計の深さや底の工合又は地面に入れられた深さの定め方は何か據があつて定められたものであるか若し據ありとすれば其の點だけを承て置き度い。

次に述ぶるところのものは森林内外の蒸發關係であつて全國十九個所（低所は東京市外地高所は海拔一千百メートルの所）の森林測候所で矢張普通蒸發計で調べたものであるから著者の申さるゝ水面からの蒸發で地表からの蒸發とは違ふが木のあつた所と無い所との蒸發關係を知るの一端にもと思ふて大正二年から七箇年間に計つた結果だけを附記し置くこととした。

蒸發のことは元より其の土質氣温地温湿度降水量等種々の因子に關係するものです森林の内外と云ふても森林樹木の種類疎密度樹齡や觀測個所の林地との距離如何等種々の關係で異なるもので随分錯雜な關係を以て居るから到底一律の元に斷定的の結論を下すことは出來ないのは申す迄もないことである。

林地は直接日射を受くること少から林外に比しては一般に低温多湿であつて又風力も微弱であるから林内の蒸發は林外の様に多くないことは明らかなことであるが一般に林内の蒸發量は林外より著しく少量で林外に對する林内の蒸發の割合は針葉樹林では平均 33 パーセント闊葉樹林では平均 36 パーセントに當つて居る而して林外での蒸發量は大体七月に最大で最少なのは冬期である林内では四五月の候に割合に大で冬期に少なるのは林外と一致して居る林内の蒸發の最多量なる時期では針葉樹林は林外の 40 パーセント闊葉樹林は 49 の蒸發量を示し之と

反對に林内蒸發量の最少なる時期では針葉樹林潤葉樹林とも林外の 36 パーセントの蒸發量を示して居る。(完)